

異文化(多文化)交流事業の持つ ファシリテーション機能の検討

～日英「いじめ問題ワークショップ」創造交流事業を通して～



2006年7月～2007年4月にかけて、NPO法人ZUTTO主催の『日英「いじめ問題ワークショップ」創造交流事業』が行われました。

日本はもとより、各国でいじめの問題が子どもの心身をむしばんでいます。いじめ問題の解決には、おとなにできることに限界があり、子ども達自身の主体的な力を活かす事が有効です。この事業は、子ども達自身が「多文化な視野」を得ながら、「ピア・エデュケーター」となってワークショップを開発・実施することにより、主体的な問題解決力と創造的な関係構築力の獲得を支援することを目的としていました。

今回のプレゼンターは、この事業に大人スタッフの一人として参加。事業実践を具体的素材として取りあげ、子どもたちに起こった体験を詳述することにより、異文化(多文化)交流のもつ機能について検討し、修士論文としてまとめました。

当日は、修士論文について紹介しながら、参加者の皆さんと異文化(多文化)いじめ問題・ファシリテーション・エンパワメントなどをキーワードにしなが、理解を深め合う時間としたいと思います。

【修士論文概要】

プログラムの持つ大きな特徴を3つに分類し、それぞれの特徴が子どもをファシリテートする機能もっていることを明らかにする目的で、子どもの活動の直接観察や言語表現資料を分析した。

- ① 異文化(多文化)交流の意義について
子どもたちが異文化(多文化)と出会うことにより、どのように新たな知識・視点を獲得し、自己理解を深め生活上の意欲を賦活されているのか。
- ② 「テーマを持ったワークショップを行うプログラム内容」に関する意義について
異文化(多文化)の持つ利点についても報告
- ③ 「子どもの体験をつむぐ大人」の意義について
ファシリテーターとしての役割を持つ大人について、子どものありのままを受け止める大人が、子どもの体験を意義づける重要な役割もっていることに注目。

- 日 時 2008年10月15日(水)
19:00～21:00
- 会 場 eトコ 1階 ウリホール
(大阪市東成区東小橋2-5-32)
- 定 員 30名
- 参加費 無料
- 対 象 どなたでも
- プレゼンター 植木美恵子

大阪市立大学大学院 創造都市研究科
都市政策専攻 都市共生社会研究分野修了



共催: NPO法人ZUTTO
ざ★ファシリテーターズ
HEAL(ホリスティック教育実践研究所)

申込・問合せ先: eトコ・プロジェクト
FAX: 06-6972-8757
E-mail: etoko@mbe.nifty.com